

第2回グリ下会議 議事要旨

R5.9.20（水）15:30～16:40 中央会館第1・第2会議室

冒頭、座長あいさつ及び事務局より議事公開範囲の確認。

【議題1】就労支援と相談支援について

認定NPO法人D×Pより現状と課題、取組状況等に関する説明。

（意見）

- ・夏休みの期間もあり、集まるこどもの低年齢化が生じているように思われる。
- ・東京のトー横や名古屋のドン横に集まる若者ともSNSでつながり、実際に遠征して行き来しているのでネットワークが広がっている。
- ・集まってくる子は虐待や貧困で居場所がない子たちだけではなく、普通の家庭の子も来ている。今集まってくる子とこれから来る子をどうするかが問題である。
- ・小学校高学年や中学生といった、働く事が難しい年齢の女子がパパ活をしている状況がある。
- ・未成年者の公的支援は児童相談所のみで行うものではなく、こどもの居住地の自治体をはじめどこがどのように関わっていくのかは考えていかないといけない。
- ・日弁連の「子どもの手続代理人弁護士」制度をグリ下のこども支援に活用できないかと思っている。
- ・すぐに働けるという状況にある若者は多くない。そこに至る支援が大切であり、時間のかかる部分。
- ・民間単独での支援にはどうしても限界があり、複数で見守り関わり合うような体制が必要。
- ・グリ下会議での連携を契機に民間支援機関と行政が連携して対応する個別事例も生じ始めている。
- ・グリ下に集まる支援を要するこども・若者の人数に対し、活動している民間団体はここに参画している機関程度で、マンパワーも財源も大きく不足している状態にある。
- ・支援していく中で働く場所と住む場所の情報は非常に重要で、データベース的に共有していく方法があるとよい。
- ・住まいと仕事がセットで、家族のように接してくれる雇用主も現れている。
- ・住み込み・寮付きの職場は有効な方法であるがブラックな職場である場合もあり注意が必要。
- ・企業や地元商店も人手不足に悩んでいるが、雇用主としてどのように若者を受け入れるのか不安である。若者が段階的に仕事に就いていくための支援を雇用主だけに任せるのではなく、若者が職場定着できるような支援が必要かと思われる。
- ・福祉や医療等の専門性を要する支援に関しては、行政色が出ると拒否感を持たれるのももちろんわかるがやはり公的機関による取組も必要ではないかと考える。
- ・いかにアウトリーチするのか。行政色を出したアウトリーチでは支援に繋がりにくいので、グリ下会議のように官民の情報共有を強化し、検討することが必要である。

【議題2】第1回会議で出された意見等に関する情報共有

大阪市建設局河川課より、戎橋橋下照明の改修工事が9月1日に完了したと報告。

【議題3】その他

- ・次回日程候補の調整。

座長閉会あいさつ